

第1回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議次第【結果】

【日時】 令和7年5月8日（木）18時10分～19時40分

【場所】 小諸市役所3階 第1・2会議

【出席者】：原委員、村田委員、細谷委員、宇野委員、木内委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、事務局（塩川部長、五十嵐課長、小林係長、鷹野主任、井出主任、江角）

【欠席者】：なし

※委員10名中、過半数となる5名以上が出席したため、小諸市廃棄物の処理及び再生利用の促進に関する条例施行規則第23条第2項により、会議を行った。

（司会：五十嵐課長）

1 開 会（五十嵐課長）

2 自己紹介

【名簿の順で委員の自己紹介】

【事務局より自己紹介】

【事務局】

条例にあるとおり13名以下で構成する組織のため、あと3名の枠を現在、公募の手続きをしている。

3 小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議について

【事務局】

⇒事務局から資料に基づき、条例・規則、概要について説明。

⇒質問・意見等なし。

（司会：五十嵐課長）

4 協議事項

(1)会長及び副会長の選任について

【事務局】

長年、会長を務めていただいた細谷委員が、社会福祉協議会の会長を退任される

方針であり、本会議の会長の任を辞することとなった。

【細谷委員】

社協の会長に就任し、10年というこの機会に、退任するという意向となった。ごみの問題は、生活していくうえで切っても切れない重要なテーマであり、この市民会議の中でたくさん考えてきた。長年そこに携われて良かったと思う。

【事務局】

条例上、会長と副会長は互選だが、ご意見ある方は願います。

【委員】

細谷委員には大変お世話になった。今後も是非続けていただきたいが・・・

【細谷委員】

それは、お返事できないですね。

【委員】

みなさんご事情があるだろうから。この中で長くこの会に携わっている宇野委員に会長をお願いしたいと思う。副会長は木内委員に、引き続きお願いするのはどうだろうか。

【事務局】

委員の提案に意見が無ければ、拍手をもって決定としたい。

※委員全員の拍手

【宇野会長】

細谷委員とは、当初からともにこの会に携わってきた。勉強会含め、とてもいい会だった。感謝しています。小諸には越してきて 50 年になるが、ごみの問題には長く携わらせてもらっているのです、よろしくお願いします。

市民会議では、いろいろなアイデアが出たが結論の出ていないことばかり。せっかく委員が集まっているのだから、そのあたりについて事務局もしっかり考えてもらいたい。

【木内副会長】

宇野委員と一緒にごみ減量アドバイザーをしている。今までの市民会議も、意見が活発で勉強になることがたくさんあった。今期もそういう良い会議にしたいと思っている。

(司会：宇野会長)

5 報告事項

(2)小諸市のごみ処理の状況

【事務局】

⇒事務局から資料に基づき説明。

【委員】

令和 6 年度の組成調査では、6 割が燃やすごみとの結果だったが、なぜこういった結果になったのか、思料されることはあるか？

【委員】

組成調査の実際の現場を見ると、分別が悪いのは、悪意よりも分別が分からなくて燃やすごみに全部含めているといった印象がある。

【委員】

啓発活動をすることが大事なんだと前向きに捉えたい。

【事務局】

市としても、なるべく分別方法が周知されるよう、カレンダーの全戸配布を区に依頼したり、市役所以外でのカレンダー設置を行ったりと啓発に努めている。

(2) プラ一括回収について

【事務局】

⇒事務局より進捗状況を説明。令和8年4月開始は延期になる旨を説明。

【委員】

他の県内の市が始めているのに、どうして小諸はできないのか。仕組みの問題なのかお金の問題なのか、何が難しくしているのか知りたい。

【委員】

プラスチックの一括回収について説明すると、この一括回収は国が決めた国策であり、いずれは必ずやらなければいけないこと。全国の自治体で始まってきているが、各市町村は、始めるまでに様々な課題があり悩んでいる。また、プラ一括回収の処理を受け入れる処理業者の受け皿が足りなくなってくる。コストがかかることだが、今後の交付金の問題や先送りすればするほど、問題があることも考えなければならない。

【委員】

聞けば聞くほど難しいことなんだなと。

【事務局】

小諸市と他市町村は、新事業を始めるにあたって状況的に違う部分がある。本来、令和8年4月スタートを目指していたが、今の状況だと費用面等で延期にする予定という方向性である。市としては、プラ一括回収を今後検討していく方針でいる。今後も議題とし、一緒に考え意見をいただけたらと考えている。

(3)事業系ごみの展開調査について

【事務局】

⇒事務局から資料に基づき説明。実施の内容とR5年とR6年で、事業系ごみ袋の販売数が減少したことについて説明。

【委員】

単に販売した袋の数が減ったからと言って、実際にこの1年で事業系ごみが減ったということが言えるのかは不明だと思う。だが、今まで事業系ごみのことをあまり議題にあげてこなかったし、市が行う検査のことや実際の部分を情報として共有できるのはいいことだ。

【委員】

事業系ごみの全体像を見るのであれば、イー・ステージの産業廃棄物のデータを市と共有していけば、令和5年と令和6年でどう変わったかが見えてくると思う。

5 その他

【事務局】

⇒事務局より次回開催は、8月以降に報告事項等整ったところで、開催の連絡をする旨を説明。

⇒異議・意見等なし。

【委員】

家庭系のごみ袋で、ステッカーを貼って排出する事業系ごみは、組成調査の結果に含まれているのか。

【事務局】

含んだ数値です。

【委員】

リチウムイオン電池の回収については、小諸市はどういう状況か？

【事務局】

現在は生活環境課の窓口に、リサイクルボックスを置いて対応している。国からも通達が出ていることなので、これからも対応を考えていきたい。

6 閉 会（木内副会長）